

いわて 復興だより

がんばろう岩手 つながりをつなぐ
第192号
令和6年度第1号



資料 3

三陸復興

平成23年3月11日に東日本大震災津波が発生しました。発災以来、国内外から多くの温かい励ましや御支援をいただきしております。心から感謝申し上げ、この「つながり」を大切にし、復興のステージを更に前に進めていく岩手県の今を紹介します。

開催 令和6年度 第2回いわて復興未来塾開催

令和6年9月21日(土)、「持続可能な三陸地域の創造～震災伝承×復興ツーリズム×交流～」をテーマに、令和6年度「第2回いわて復興未来塾」(併催：いわて三陸復興フォーラム(沿岸報告会))が、陸前高田市で開催されました。

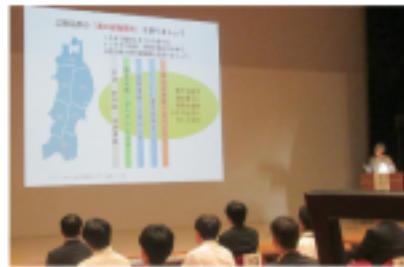
午前のエクスカーションでは、高田松原津波復興祈念公園パークガイドの案内で、公園内の視察が行われ、36名が参加しました。このパークガイドは、東日本大震災津波の教訓と陸前高田市の魅力を伝えるため令和3年夏に始まったサービスです。陸前高田市観光物産協会から認定を受けた“個性豊かな”地元住民がガイドとなり、高田松原津波復興祈念公園内を案内します。視察した震災遺構等は、旧道の駅高田松原タピック45、海を望む場・防潮堤です。あいにく雨天の中での実施となりましたが、参加者の方からは、「震災遺構を間近に見られ、津波の威力や怖さについて感じることができた」、「パークガイドさんの話や見せ方が上手で内容がスムーズに入ってきた」、「今まで沿岸部で生活していて、震災のことをよく知っていたと思っていたが、今回、新たに学ぶことがあった」などの声が寄せられました。

午後は、陸前高田市コミュニティホールを会場に、基調講演及び事例報告が行われ、74名が参加しました。

基調講演では、宮城学院女子大学現代ビジネス学部教授の宮原育子さんから、復興ツーリズム・震災伝承の可能性と題して、これまで整備



旧道の駅高田松原タピック45内を見学する参加者



宮原教授の講演の様子

されてきた様々なインフラや施設、活動を組み合わせた三陸沿岸の海の縦軸観光の可能性について、ご講演いただきました。

事例報告では、一般財団法人3.11伝承ロード推進機構業務執行理事の原田吉信さんから、震災伝承施設と観光コンテンツの融合による交流創出と題して、3.11伝承ロード推進機構が実施した旅行業者モニターツアーのアンケート結果の報告がありました。

また、ワタミオーガニックランド株式会社農場責任者の鈴木空慈さんから、ワタミオーガニックランドのこれまでの取組と、交流人口拡大に向けた取組としてSDGs体験ツアーの紹介などの報告がありました。

知事からは、三陸沿岸道路の可能性を感じること、縦軸観光が三陸の今後の一つの方向性として見えてきたことなど、中長期的なビジョンを感じることができたとのコメントがありました。

基調講演・事例報告の様子は、動画配信サイトに掲載していますので、是非ご覧ください。



原田業務執行理事の事例報告の様子



鈴木さんの事例報告の様子



基調講演・事例報告後の記念撮影の様子

■問い合わせ 岩手県復興防災部復興推進課

☎019-629-6945



開催

令和6年度 第1回いわて復興未来塾開催

令和6年9月8日(日)に、令和6年度「第1回いわて復興未来塾」〔併催：いわて三陸復興フォーラム(沿岸報告会)〕を開催し、田野畠村及び山田町でエクスカーションを実施しました。参加者数は、44人でした。

午前は、田野畠村において、「みちのく潮風トレイルガイドウォーク」を行いました。海の景観をダイナミックに感じができる「みちのく潮風トレイル」コース内を、NPO法人体験村・たのはたネットワークのガイドの案内で、中級者向け1コース、初級者向け2コースのトレッキングを行いました。



中級者向けコースをトレッキングする参加者

午後は、山田町に移動し、「震災ガイド＆街歩き」を行いました。陸中山田駅周辺や新生やまだ商店街、慰霊碑等が設置されている御蔵山など、やまだワンダフル体

験ビューローの語り部ガイドの案内で、語り部自身の震災の経験、新しいまちづくり・商店街の再生等の話を聞きながら歩き、防災・まちづくりについて学びました。



山田湾展望広場から山田湾を望む参加者

参加者からは、「震災を学び、記憶するため、もっと頻繁に沿岸を訪れたい。自然を楽しみながら復興に協力したい」、「今日学んだことを所属団体でも共有し、さらに三陸について知ってもらえるよう努力したい」、「自然の恐怖、偉大さを忘れないようにしたい」などの声が寄せられました。

■問い合わせ 岩手県復興防災部復興推進課
☎019-629-6945

世界へ、未来へ いわて TSUNAMI(つなみ)メモリアル

東日本大震災津波の事実と教訓を伝える施設「東日本大震災津波伝承館」(いわて TSUNAMI(つなみ)メモリアル)を紹介します。

令和6年6月2日(日)、東日本大震災津波伝承館の来館者数が開館から4年8か月余りで100万人に達しました。100万人目の来館者となったご家族には、地元特産品などの記念品を贈呈しました。

東日本大震災津波伝承館は、教育旅行や観光旅行をはじめとして国内外から多くの皆さまをお迎えし、館内の展示物や解説員の解説を通じて、東日本大震災津波の事実を伝え、災害時に命を守るために必要な教訓を学び、考えていくための取組を続けてきましたが、本年1月1日に発生した令和6年能登半島地震をはじめ、国内外で大きな自然災害が起きており、こうした取組の重要性が増しています。

また、発災後に生まれた、これから岩手を担う世代に、東日本大震災津波の事実を自分ごととして考えるとともに、世界中から寄せられた支援への感謝の気持ちを忘れずに持ち続けてもらうことなど、当館の果たすべき役割は一層大きくなっています。

東日本大震災津波発災から13年7ヶ月が経過しましたが、東日本大震災津波伝承館では、記憶の風化を防ぎ、国内外の防災力の向上に貢献するため、震災学習・防災学習の拠点として震災津波の事実と教訓をお伝えするとともに、寄せられた多大なご支援への感謝と復興の歩みを引き続き発信していきます。

■問い合わせ 東日本大震災津波伝承館 ☎0192-47-4455



記念品を贈呈しました



100万人の皆様にご覧いただいた消防車



話題

三陸鉄道開業40周年

三陸鉄道は、令和6（2024）年4月1日に開業から40周年を迎えました。

昭和59（1984）年に、日本で初めての第三セクター鉄道として開業した三陸鉄道は、北リアス線（宮古ー久慈）と南リアス線（盛一釜石）の2路線で、沿線地域観光や住民の足として、大きな希望を乗せて走り出しました。

しかし、平成23（2011）年3月11日の東日本大震災津波の発生により、北リアス線、南リアス線ともに甚大な被害を受けました。一刻も早い復旧に向けて、鉄道車両の中に緊急対策本部を設置し、震災の5日後の3月16日には、震災復興支援列車として、陸中野田駅ー久慈駅間を運賃無料で再開します。全線運行再開に向けては、国や関係自治体をはじめ、全国、海外から、たくさんの励ましの言葉やご支援をいただきました。中東のクウェート国からも支援をいただき、車両8両の新造や津波で流出した駅舎の再建に活用しました。

そして、平成26（2014）年4月5日に南リアス線が、4月6日には北リアス線が全線運行再開し、三陸鉄道全線が復旧します。さらに、平成31（2019）年3月には、JR山田線のうち釜石駅ー宮古駅間が移管されることを受け、全長163km、全国の第三セクター鉄道の中で最も長い路線を有する鉄道事業者として、運行が始まりました。ところが、令和元（2019）年10月13日、台風19号のため、三陸鉄道は、再び大きな被害を受け、全区間



の約7割に当たる113.7kmが不通となります。早期の復旧に取り組み、令和2（2020）年3月20日に全線運行再開を果たしました。

数々の困難を乗り越えてきた三陸鉄道ですが、令和6年4月13日、宮古市のイーストピアみやこで、開業40周年記念式典が開催されました。取締役会長の達増知事からは、「これまで培われてきた底力とつながりの力で、沿岸地域の重要な交通機関としての使命を果たし続けてきた。今後も持続的な運行を通じて、地域の皆様の日常生活や三陸の振興に貢献できるよう努めていく」、また、石川義晃社長からは、「三陸振興に貢献する使命を果たすべく社員一丸となって走り続けていく」とあいさつがありました。

開業40周年の主な記念事業として、三陸鉄道巡回写真展、40周年記念イベント列車の運行、40歳無料乗車キャンペーンなどの事業が行われています。

三陸鉄道は、地域の皆様の日常の足としての役割や、多くの皆様に三陸にお越しいただくことによる地域振興への貢献という役割を果たすため、これからも走り続けます。

■問い合わせ 三陸鉄道株式会社

☎0193-62-8900

三陸鉄道40周年特設サイトはこちらから ➔

宮古市
MIYAKO

いわて復興だより第192号



開業40周年記念列車



制作

震災教育・研修研究用資料の作成

大槌町
OTSUCHI

大槌町と町教育委員会は、東日本大震災津波の授業の参考としてもうため、小中学校の教員向けに、授業の実践例や町内の被災状況などを取りまとめ「大槌町 震災教育・研修研究用資料」を作成しました。

震災後に生まれた子どもたちへ、どのように当時の状況を伝え、自分の事として考えられるかが、現在、学校現場では課題となっています。町では、令和5年度に県内沿岸市町村の全小中学校を対象にアンケートを実施し、資料の作成に活用しました。

資料は、令和6年6月に、町立学校の教員全員とアンケートに協力した全小中学校に配布しました。町によると、「震災伝承や防災の取組などについて、まず教員の方に知っていただき、それを少しでも子どもたちに伝えてほしい」とのことです。

■問い合わせ

大槌町協働地域づくり推進課

☎0193-42-8718(直通)



大槌町震災教育
研修研究用資料

企画

東日本大震災津波伝承館 令和6年度第2回企画展示

陸前高田市
RIKUZENTAKATA

東日本大震災津波伝承館では、令和6年9月22日（日）から12月27日（金）まで、令和6年度第2回企画展示「命を守る津波避難・避難場所の今－次の災害へ備える取組－」を開催しています。

今回の企画展示では、東日本大震災津波以降に進められてきた様々な津波避難の取組や避難場所の整備について振り返り、地震から生き延びるために準備と津波避難について紹介しています。

国内外で大きな自然災害が起きていることもあり、伝承館へお越しいただく皆さまの大規模災害への備えに対する関心の高まりが伺えます。ご来館の際は、常設展示とあわせて、是非ご覧ください。

東日本大震災津波伝承館では、今後も企画展示を通じて、東日本大震災津波の事実と教訓を多くの方々と共にしながら、自然災害に強い社会と一緒に実現することを目指します。

■問い合わせ

東日本大震災津波伝承館



第2回企画展示の様子

☎0192-47-4455



みなと公園

祈りのモニュメントの建立



祈りのモニュメント

東日本大震災津波の犠牲者の追悼と、震災の記憶を決して風化させることなく未来への教訓とする象徴的な場として、令和6年3月、大船渡市大船渡町茶屋前のみなと公園内に、祈りのモニュメント、津波伝承碑、東日本大震災犠牲者芳名板が建立されました。

祈りのモニュメントは、海を見ながら祈ることができるようガラス素材を用いており、ガラスを支える十本の柱は大船渡市の十の町を意味し、市民みんなで未来を支え合う意志を表しています。

スロープには、明治三陸地震、昭和三陸地震、チリ地震津波の高さが刻まれた津波伝承碑を設置しました。なお、スロープの頂にある祈りのモニュメントには、東日本大震災津波の高さが刻まれています。

犠牲者の御芳名は、普段は2次元コードによるスマートフォン上の閲覧としており、毎年3月11日を含めた一定期間はスロープへ設置する芳名板に掲示されます。

モニュメントに刻まれた「未来へ祈る」という言葉には、甚大な被害をもたらしてきた津波の脅威と、復興の過程で得た経験や教訓が後世へ語り継がれ、次なる津波災害による被害を最小限に留めることができるようにとの未来への思いが込められています。

場 所 岩手県大船渡市大船渡町茶屋前106-5 みなと公園内

■問い合わせ 大船渡市総務部防災管理室 ☎0192-27-3111(代表)

久慈市

盛岡市 宮古市

釜石市

大船渡市★

いわてさんりくびと

連載「いわてさんりくびと」では、被災地・三陸の復興に向け、熱い想いを持ち、活躍する方々を紹介します。第138回は中嶋 康文さんをご紹介



～海・山・川で遊ぶ変わらぬ自然を！～

PROFILE 宮古市出身。大学進学と同時に上京し就職。子どもの頃から釣りが大好きで、28歳の頃に「もう一度、地元の海や川で釣りがしたい」と思いUターン。地元企業で働きながら、釣具メーカーのプロスタッフとしても活動。令和3年6月にアウトドアブランド「EFRICA」を設立し、現在に至る。

故郷への思いが募りUターン

子どもの頃から海や川で釣りをするのが好きだったという中嶋さん。大学入学とともに上京し就職しましたが、やがて「もう一度、地元で釣りがしたい」と思い、28歳の頃にUターンしました。その後は住宅ローンに関する仕事をしながら、釣具メーカーのプロスタッフとしても活躍。次第に、「アウトドアブランドを立ち上げたい」と考えようになったそうです。そんな矢先に東日本大震災津波が発生。変わり果てた故郷を前に、仕事を通じて必死に高台移転をサポートしました。

街の新たな魅力を発信し続ける

震災から10年の月日が流れた令和3年、中嶋さんは、外遊び系雑貨の企画、開発、販売を行う「EFRICA」を設立。2年後の令和5年には、宮古駅からほど近い場所に実店舗も構

えました。

「これまで南部鉄器や老舗の染物店、食品製造会社などと共同開発し、岩手ならではのアイテムを販売してきました。少しでも多く地元でものづくりをする人たちと関わりながら、その魅力を発信していきたいと思っています」

そう語る中嶋さんに復興への思いを伺うと、こんな言葉が返ってきました。

「大切なのは、日常を取り戻した“その先”です。今まで以上に若い世代のアイディアを取り入れながら、街の新たな魅力を発信していくのが良いのではないかと思います」

将来は、自然の中で子どもたちに遊びを教えるインストラクターの役割も果たしたいと語る中嶋さん。大好きなアウトドアを通して、宮古市の魅力を発信し続けていきます。

岩手県の被害状況

令和6年9月30日現在

- 人的被害 死者：5,147人（余震、震災関連死を含む）
行方不明者：1,107人
- 建物被害（住家のみ、全半壊）26,079棟
被害状況等の詳細／義援金・寄附金の募集等

いわて防災情報ポータル

検索

皆さんのご支援、ありがとうございます

令和6年9月30日現在

- 義援金受付状況 約188億6,318万円(99,610件)
- 寄附金受付状況 約208億2,853万円(23,778件)
- いわての学び希望基金(※)受付状況 約107億7,828万円(28,529件)
※被災したこどもたちが勉強やスポーツ等に励めるよう「くらし」「まなび」の支援に使われます。



いわて震災津波アーカイブ～希望～

いわて復興だより 第192号

令和6年10月28日発行 企画・発行／岩手県復興防災部復興推進課 ☎019-629-6945 編集・校正／永代印刷株式会社

約24万点の資料を検索・閲覧できます。

いわて震災津波アーカイブ

検索

